

## デジタル身分証アプリの活用

以前の県政だよりでも考えをお伝えしましたが、私は県民の皆さんが必要な情報をご自身で検索して調べるのではなく、行政から皆さんの元に適時届くような環境をつくりたいと考えています。その有力な手法が「デジタル身分証アプリの活用」です。これは、多くの皆さんが取得しているマイナンバーカードを利用するもので、マイナンバーカード内のICチップに登録されている4情報(氏名・住所・生年月日・性別)だけをスマートフォンに取り込んで活用するものです(問題になっている保険証や銀行口座の個人情報には全く触れませんのでご安心ください)。また、このアプリには生活を便利にするミニアプリ(防災アプリや行政に意見を伝えるアプリなど)を付加します。このアプリの利点は、①マイナンバーカードに紐づいているので必ずご本人であることを確認できる②電話番号やメールアドレスが分からなくても県民お一人お一人と意思疎通ができる③ミニアプリもマイナンバーカードの4情報と紐づくので一度登録すると煩わしい手続きが不要となる④地域を限定したサービス(例えば地域ポイントの付与など)ができるといった点です。これからさらに使いやすいものに改善して、県民の皆さんに進んで登録してもらえるような環境づくりを目指したいと考えています。ぜひ関心を持って見守っててください。

宮城県知事 村井 嘉浩



【写真の説明】

- 1 農作業(桃の摘果作業)の様子 2 大沼さんの師匠で、入谷地区で長年農業を営む阿部夫妻  
3 キッチンカーでのクレープ製造・販売とサツマイモのクレープ 4 農園で収穫した桃  
5 「キラリ!農スタイル」魅力発信事業での農業体験 6 里山風景と栗園で栗を植樹する様子

農業体験の受け入れなどを行っています。すぐに就農に結び付けることは難しいですが、私自身が、この地域での新規就農の先駆者として農業を続け、魅力を発信することで、農業に携わる「仲間」を増やしていきたいと思っています。この入谷地区には、地域の農業を守り続けてきた多くの大先輩がいて、次の世代を育てようと親身に、そして熱心に指導してくださっています。この大先輩たちのように、中山間地域である入谷地区ならではの農業の発展に向け、いきいきと活躍する農家を目指します。

**地域活性化に向けた取り組み**

令和3年10月に農村の持続的な発展を目指し、「入谷の里山活性化協議会」が発足されました。その部会の一つである「南三陸農工房」のメンバーとして、イベントの企画・運営を行っています。主に、収穫体験や調理体験など、農業や食などの地域資源を活用したグリーンツーリズムに力を入れています。

今後も、農業を通じて多くの人が入谷地区を訪れることで、新たな交流が生まれ、地域が



大沼農園  
園主 大沼 ほのかさん

自分たちで生産した果物などの農作物を使う料理・スイーツを提供するカフェを開き、多くの人々が交流する場を作りたいと考えています。そして、若者たちがにぎわいながら楽しく一次産業に携わる、活気あふれた農村地域づくりを目指したいです。

また、町内で廃棄される生ごみを有機肥料として再利用した循環型農業や、減農薬・無農薬栽培など、環境への負荷に配慮した持続可能な農業にも取り組んでいきたいです。

**— 今後の展望は? —**

元気になるよう、仲間と共に盛り上げていきたいです。そのために、若い世代の私たちが、地域の魅力を積極的に発信し続けていきます。

**— 現在の取り組みは? —**

**6次産業化を見据えた農業**

果樹(桃・栗・ブドウなど)やサツマイモなどの栽培のほか、収穫した果物などを加工し、それ

**地域の農業を担う人づくり**

入谷地区の農業の発展や新規就農者の確保のために、さまざまな取り組みを行っています。その一つとして、若い女性の新規就農者の確保・定着につなげるための県の事業に協力し、職業としての農業の魅力を体感してもらうため、

本シリーズでは、県政運営の基本方針「新・宮城の将来ビジョン」において重要な視点として位置づけている「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、各分野で魅力ある活動に取り組み県内の企業・団体などを紹介していきます。

第19回

# キラリ輝く 若手農業者の活躍

大沼農園(南三陸町)

今回は、若者世代に農業の魅力を発信する県の事業『キラリ!農スタイル』魅力発信事業』に関わり、現在、若手農業者として注目を集める大沼ほのかさんにお話を伺いました。

**— 農業を始めた経緯は? —**

高校の授業がきっかけで農業に興味を持ち、県農業大学校で果樹栽培を学んだ後、令和元年に出身地である南三陸町で新規就農しました。就農を決意したのは、農業大学校1年生の時。南三陸町の入谷地区で長年農業を営む阿部夫妻の下で、1カ月間の研修をしている時でした。昔ながらの里山風景や、中山間地域で農業に真剣に向き合う先輩方の人柄に魅了され、在学中から準備を進め、この入谷地区で就農しました。

を使用したクレープの移動販売を行う6次産業化に取り組んでいます。

生産だけでなく、加工・販売までを一体的に行うビジネスにしようと考えたのは、養鶏場を営む両親が、生産した卵をお菓子に加工して販売する姿を見ていたからです。両親の取り組みをモデルとして、就農準備の段階から、6次産業化を見据え、加工しやすい果樹などを育てようと考えていました。中でも、いろいろな商品に加工できる「栗」は、学生の頃から研究するほど大好きで、苗木からの栽培を試みましたが、二年連続で失敗してしまいました。その後、原因究明に奔走し、三度目の挑戦となる今年、何とか順調に育っていて、大きな達成感を覚えています。

ページ

新・宮城の将来ビジョンシリーズ

2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~  
大沼農園(南三陸町)

特集1  
4 宮城オルレを歩きに行こう!

特集2  
8 宮城の保健・医療・福祉を支える看護職  
~ 復職をお考えの方を支援します ~

特集3  
10 Work in MIYAGI  
外国人材の活躍をサポートします

県政ニュース  
12 なくそう!望まない受動喫煙

県政ニュース  
13 9月は「がん征圧月間」です  
がん検診を受けましょう

県政ニュース  
14 11月1日から段階的に  
運転免許更新受付時間などが一部変更されます

15 おいしいものがたくさん!  
まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信(巨理町・川崎町)

21 県立施設インフォメーション

22 県からのお知らせ

## みやぎの人口(令和5年6月末現在)

住民基本台帳人口/2,248,315人(前年同月比-15,434人)

男/1,096,472人 女/1,151,843人

世帯数/1,042,816世帯(前年同月比+8,233世帯)

今号の表紙

## 笑顔はじける若き農業者

自分の夢に向かって突き進む若き農業者、大沼さん。愛情たっぷりに育てられた桃は、一つ一つがとても立派で、甘い香りに包まれて幸せな気持ちになりました。周囲を元気にしてくれる明るさや農業に真剣に向き合う姿、そして、農業を通じて地域を元気にしたいという強い意志が、とても魅力的でした。